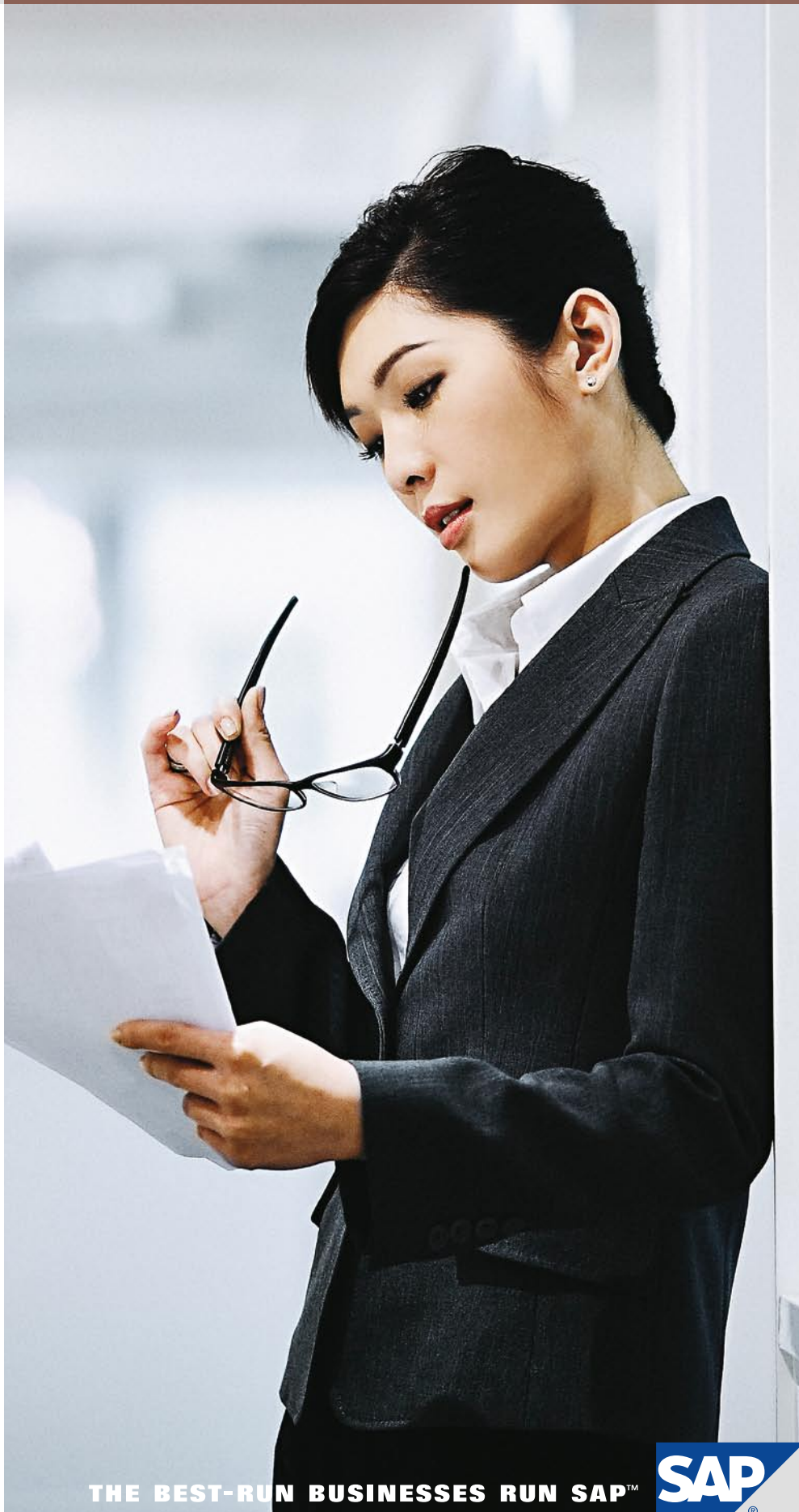


ビジネスの合理化と成長の促進のために

低コストで導入が可能な
中小企業向け業務管理パッケージ

SAP® Business One は、販売管理、顧客管理から財務管理、購買管理、在庫管理、生産管理まで、業務全体にわたるすべての機能が1つのシステムに統合された中小企業向けの業務管理ソリューションです。短期間で導入が可能なSAP Business Oneによって、中小企業は業務の合理化とともに、リアルタイムに提供される正確・最新の情報に基づいて意思決定を行うための体制を構築し、ビジネスの成長と収益の拡大を促進することができます。



目次

5	SAP Business One	12	在庫管理
5	1つに統合された業務アプリケーション によるビジネス全体の合理化	12	SAP Business Oneの在庫管理機能
5	顧客関係と顧客ロイヤルティの強化	13	サービス管理
5	行動につながる正確・最新な情報の提供	13	SAP Business Oneの サービス管理機能
5	変化するニーズへの対応	13	レポート
		13	SAP Business Oneのレポート機能
6	中小企業に特化した設計	14	事前定義済みレポート
6	SAP Business Oneの主な機能	15	Microsoft Outlook 統合
6	会計管理 / 財務会計	15	簡単な設定とカスタマイズ
6	販売管理 / 顧客管理	15	単一サーバー環境のアーキテクチャー
6	購買管理 / 生産管理	18	ユーザー定義によるカスタマイズ設定
7	在庫管理 / 物流	18	SAP Business Oneの設定機能
7	レポート / 管理	18	変化するビジネスニーズへの対応
7	会計管理 / 財務会計	18	ユーザー定義項目
7	SAP Business Oneの 財務会計管理機能	18	フォーマット検索
8	リアルタイム会計	18	アラートと承認
8	月次処理	19	SAP Business Oneの アラート / 承認機能
9	財務レポート	19	ソフトウェア開発キット(SDK)
9	顧客管理(CRM)	19	SAP Business One SDKの機能
9	CRM活動管理	19	SAP Business One SDKの コンポーネント
10	販売管理		
10	SAP Business Oneの販売管理機能	21	中小企業向けのSAPソリューション
11	購買管理	21	詳細情報
11	SAP Business Oneの購買管理機能		
11	資材所要量計画(MRP)		
11	SAP Business Oneの 資材所要量計画機能(MRP)		

事業の成長にもっと多くの力を注ぎたい。中小企業の経営者であれば、誰もがそう望んでいるはずです。しかし実際には、細かな日常業務、必要に応じて求められる情報提供、とどまるところのない市場競争の激化などに絶えず対応しなくてはなりません。こうした中、販売や会計、それに関連したさまざまな業務の各種プロセスが完全に統合されていない状況では、業務のボトルネックが生じ、収益性の低下を招くことになります。また、複数のシステムを使用している状況ではデータの二重入力などの unnecessary 作業が発生し、エラーや業務の遅れにつながる可能性があります。顧客データや在庫レベルといった重要なビジネス情報が複数のシステムや異なる場所に分散している場合には、応答時間に遅れが生じ、顧客満足度が低下してしまうことも考えられます。こうした課題に加え、顧客の獲得と維持をさらに困難にしている要因として、競合他社の存在もあります。

競争優位性を維持するには、業務プロセスの合理化と同時に、適切な情報にアクセスするためのよりよい方法を見つけ出し、最善の意思決定を行える環境を整える必要があります。すべての顧客関連の情報を追跡し、効果的に利用できるシステムを構築できれば、個別の顧客に対してより合理的なサービスの提供が可能となり、顧客ロイヤルティを維持して次の取引へとつなげることができます。また、収益と支出を正確に監視して管理を行うことができれば、キャッシュフローを最適化して財務能力を強化し、ビジネスチャンスが訪れたときに迅速に対応できる柔軟性を獲得することができます。

SAP® BUSINESS ONE

1つに統合された業務管理機能

SAP® Business Oneは、事業運営の主要な業務プロセスに対応した包括的な機能を提供する統合型業務管理ソリューションです。特定業種向けのソリューションとは異なり、財務会計、販売管理、顧客管理、購買管理、在庫管理、生産管理などの各業務領域にまたがる統合された管理機能を備えています。また、特に中小企業向けに設計されたSAP Business Oneは、導入および維持管理が容易であることに加え、経営者にとって何より重要な使いやすさを備えています。

1つに統合された 業務アプリケーションによる ビジネス全体の合理化

SAP Business Oneは、業務プロセスにおける主要な機能すべてを統合し、財務会計、販売管理、顧客管理(CRM)、購買管理、在庫管理、生産管理などの業務領域を管理できます。また、1つに統合されたシステム上で管理するため、ビジネス情報を組織全体ですぐに活用することができ、エラーの原因となるデータの重複入力はいらないため、コスト削減にもつながります。ワークフローに組み込まれた業務上必要な処理を自動的に通知するアラート機能が搭載されているため、ユーザーは重要なビジネスイベントに対して、重点的に取り組むことができます。これにより、細かな日常業務に振り回されることなく、ビジネスの推進により多くの時間を割くことができるのです。

顧客関係と顧客ロイヤルティの強化

SAP Business Oneによって、販売活動や顧客サービス/サポートの一元的な管理が可能となるほか、他の業務管理機能と緊密な統合を

図ることもできます。また、SAP Business Oneを使用すると、販売、財務、その他購買、在庫、生産など各部門のデータをリアルタイムに使用することができ、最新の情報に基づいた顧客分析を行い、サービスの迅速化と改善を図ることができます。

「SAP Business Oneにより、常に事業全体の状況を把握できるようになりました。

どの倉庫でも、すべての受注に関する状況を確認できるため、推測に基づく作業を行うこともなくなりました。

ファッション業界では何よりも俊敏性が求められるだけに、SAP Business Oneがもたらした事業への影響は計り知れません」

Richard Haugen 氏
Yak Pak Inc. 最高執行責任者 (CCO)

行動につながる正確・最新な情報の提供

SAP Business Oneでは、販売、顧客、財務などに関する重要なデータが、すべて1つに統合されたシステムで一元管理されるため、必要なときにすぐに必要なデータを利用することができます。直感的に操作が可能なユーザーインターフェースにより、関連のデータをクリックしていくだけで、簡単に必要なデータを得ることができます。また、収益やコスト、利益率などの追跡によって、管理者はリアルタイムに業績を評価して改善方法を決定できます。



変化するニーズへの対応

SAP Business Oneは、設定や構成が簡単です。事業の成長に伴って変化するニーズに対応するための調整やカスタマイズを行うこともできます。SAP Business Oneを基盤にSAPのソリューションパートナーが開発したソリューションは、業種別ソリューションを中心にグローバルで450以上あり、ユーザーはこの中から用途に応じて必要な機能を自由に選択することができます。これにより、それぞれの企業が抱えるビジネスや業種に関する課題に合わせたカスタマイズや拡張が可能となります。

中小企業に特化した設計

業界リーダーであるSAPが提供する 中小企業向けの業務管理ソリューション

SAP Business Oneは、ビジネスソフトウェア(ERP)の分野でSAPが35年以上にわたって積み重ねてきた経験をもとに、中小企業向けに特化して設計された短期間で導入可能な業務管理ソリューションとして、高く評価されています。1つのアプリケーションとして業務を統合管理できるので、複数のスタンドアロン製品を統合する場合と比べてコストと労力を削減することができます。また、直感的なインターフェースを備え、幅広い設定が可能なSAP Business Oneは、短期間で導入が可能で、維持・運用も容易です。

SAP Business Oneの主な機能

以下は、SAP Business Oneで管理できる主要な業務領域についての概要です。

会計管理 / 財務会計

SAP Business Oneは、総勘定元帳、仕訳帳、予算、および買掛金(A/P)と売掛金(A/R)などの管理を行います。小切手、現金、クレジットカードによる支払処理をはじめ、各種勘定の照合作業、損益勘定、キャッシュフロー、売掛に関する財務レポートの作成など、入出金関連の管理も可能です。また、関連する業務処理が発生した場合には、関連する勘定転記を更新します。

販売管理 / 顧客管理

Microsoft Outlookと同期し、顧客とのコンタクトに関する管理と更新を行えるSAP Business Oneによって、販売効率を高めるとともに、顧客関係を強化することができます。販売機会と営業活動について、顧客への最初のアプローチから成約に至るまでの過程を記録・追跡することができます。また、サービス業務、サービス契約、顧客サポートの管理を行うこともできます。

購買管理 / 生産管理

多くの中小企業は、購買発注の登録から仕入先への支払までの調達プロセスを管理するための体系的な管理方法を必要としています。SAP

SAP Business Oneの主な機能			
会計管理 / 財務会計	販売管理 / 顧客管理	購買管理 / 生産管理	在庫管理 / 物流
■ 総勘定元帳と仕訳伝票 ■ 管理会計 ■ 予算管理とプロジェクト管理 ■ 入出金と取引明細書 ■ 支払処理と照合 ■ 財務諸表と財務レポート ■ 売上税と消費税 ■ 複数通貨のサポート	■ 案件管理とパイプライン管理 ■ 得意先 / 見込得意先と活動管理 ■ 販売見積と受注 ■ 販売予測とパイプライン予測 ■ サービス担当管理 ■ サービスコールの入力と追跡	購買発注 ■ 入庫と返品 ■ 購買請求書とクレジットメモ ■ 部品表(BOM) ■ 製造指図 ■ 需要予測と資材所要量計画(MRP)	■ アイテムマスター管理 ■ 入庫と出庫、在庫取引 ■ 倉庫転送とシリアル番号管理 ■ 在庫再評価 ■ 取引先カタログ番号 ■ 価格表と特別価格 ■ ロット番号管理 ■ ピッキングと梱包管理
レポート / 管理			
■ さまざまなレポート作成機能 ■ データ転送ワークベンチ、ユーザー定義項目、アプリケーションプログラミングインターフェース(API)、SAP Business One Software Development Kit(SAP Business One SDK) ■ 従業員リスト			

Business Oneを使用して、発注書、支払、返品などの処理を含め、発注から支払までの主要な業務サイクルを一元的に管理することができます。また、生産用の資材所要量計画(MRP)、部品表(BOM)の管理、そして生産完成品の在庫管理なども可能です。

在庫管理 / 物流

SAP Business Oneの導入により、在庫に関する管理を見積、受注、出荷、そして請求などを含めて実行できるようになります。たとえば、棚卸検数の実施、在庫の監視、そして複数の倉庫間の在庫転送に関してリアルタイムに正確な情報を追跡することができます。また、リアルタイムに在庫の更新や、在庫評価、利用可能在庫確認に加え、ピッキングと梱包処理などの実行も可能です。

レポート / 管理

SAP Business Oneでは、販売、顧客、財務などに関する重要なデータが、すべて1つの統合されたシステムで一元管理されるため、必要な時に必要なデータにアクセスすることができます。直感的な操作性を備えた「ドラッグ&リレート」機能とさまざまなレポート機能により、関連データをクリックしていくだけで正確・最新のレポートを得ることができ、十分な情報に基づいて意思決定を行えるようになります。

競争優位性を維持するには、業務プロセスの合理化と同時に、適切な情報にアクセスするためのよりよい方法を見つけ出し、最善の意思決定を行える環境を整える必要があります。すべての顧客関連の情報を追跡し、効果的に利用できるシステムを構築できれば、個別の顧客に対してより合理的なサービスの提供が可能となり、顧客ロイヤルティを維持して次の取引へとつなげることができます。

会計管理 / 財務会計

SAP Business Oneには、複数通貨対応、予算作成、入出金の照合などを含め、さまざまな財務会計管理機能があります。これにより、企業は、財務活動の効率性と生産性の改善を図ることができます。

SAP Business Oneの財務会計管理機能

SAP Business Oneは、以下のような財務会計管理が可能です。

会計管理：SAP Business Oneには、あらゆる国を対象にした勘定科目一覧表のテンプレートが用意されています。この勘定科目一覧表は各社固有のビジネスニーズに合わせて変更することができます。また、レポート作成に必要であれば、最大10段階まで階層設定を行い、個別の一覧表を定義することも可能です。

仕訳伝票：販売管理、購買管理、入出金などの仕訳伝票を各業務の伝票を入力すると自動的に作成する機能や、新規に仕訳伝票を作成する機能があります。また、既存の仕訳を検索したり、各取引をプロジェクトまたは利益センターに自動的に割当てたりすることもできます。

仮仕訳帳：手入力で作成した複数の仕訳伝票を1つにまとめて保存し、一括処理を行うことができます。これにより、総勘定元帳に転記される前に、内容を検証して修正を行うことができます。

モデル転記：取引について勘定科目とその金額の割当を指定するテンプレートを定義することで、仕訳伝票入力をマニュアルで行う際の時間の節約と間違いを抑制することができます。



「これまで、5つの主要な製造資源計画システムを利用したことがありますが、SAP Business Oneは、(中略)中小企業を対象としたソリューションでありながら、最高レベルの製品に匹敵するものであることは間違いありません。しかも、極めて高い柔軟性を備えながら、短期間で導入することができるのです」

Lou Giovannone 氏
Fagerdala USA Inc. グループ管理者

繰返転記：定期的に発生する取引につき、頻度を指定して自動転記の設定ができます。繰返転記機能を使用している場合、取引の転記を促すメッセージが自動的に表示されます。

反対仕訳：月末の見越額について自動的に反対仕訳を作成します。デフォルト設定では、指定した転記の反対仕訳が翌月1日に作成されますが、SAP Business Oneでは、必要に応じて別の日付を指定できます。

為替評価差異：外貨の未処理の取引明細を定期的に評価し、差異を特定して適切な処理を選択することができます。

財務レポートのテンプレート：財務レポートのテンプレートを簡単に作成することができます。テンプレートは、社内管理用の損益計算書など、用途に応じて無制限に作成できます。

入出金：現金の受領、小切手による入金から、前払、クレジットカードによる支払、そして勘定の照合までを含め、入出金処理を記録・追跡できます。

予算：勘定科目に対する予算の定義と管理を行います。予算配分方法の設定、任意の通貨(国内通貨、外貨、またはその両方)での予算の定義、実績値と計画値を比較するための集計済み予算レポートの照会などが可能です。また、オンラインアラートを設定し、取引額が月次または年次の予算枠を超えた場合に、その都度ユーザーに知らせることもできます。

利益センター：複数の利益センターや部門を定義し、該当する収益勘定と費用勘定とを勘定コード表で事前定義された利益センターに割当てることができます。

利益センターレポート：配賦規則で定義された収益と費用(直接割当と間接割当の両方)に基づいて損益計算書を作成できます。また損益計算書は、任意の利益センターでも作成できます。表示を月次と年次の2つの形式から選択したり、結果を前期の値と比較したりすることもできます。

配賦規則：業務ごとに異なる各種配賦規則を定義し、該当する配賦規則に収益勘定または費用勘定を割当てます。

リアルタイム会計

SAP Business Oneには、リアルタイム会計として、以下のような機能があります。

完全に統合された財務会計：財務会計と入出金に関する主要な業務処理について、取引の実行時に仕訳伝票が自動的に作成されるため、追加転記やバッチ処理の必要がなくなります。

迅速なドリルダウン：仕訳伝票から元の取引伝票や各種必要な情報へのドリルダウンが簡単に実行できます。たとえば、販売取引の仕訳伝票を照会する際に、ドリルダウンを行い勘定コード表の情報を確認することができます。

勘定コード表：勘定コード表の残高項目でドリルダウンを行うことができ、その残高にかかわる取引を確認できます。

月次処理

SAP Business Oneには、月次処理として以下のような機能があります。

短期決算：SAP Business Oneのアクティビティ機能を使用して、決算に関するさまざまな項目を管理するために個々のユーザーへタスクを割当ててことで、そのタスクの注意喚起を促し、月次処理を迅速化することができます。

統制勘定：統制勘定は、得意先や仕入先の残高に増減が発生した場合に、デフォルトの転記勘定科目として割当てた勘定科目です。これにより、総勘定元帳と補助元帳とが確実に同期することができます。

モデル転記：モデル転記は、ある取引の仕訳を登録する際に一定の割合に基づいて複数の部門で原価や取引の割当を行う際に使用します。また、繰返転記を使用することで、固定金額での取引の事前登録が可能です。

反対仕訳取引：この機能は、ユーザーが定義した反対仕訳を実行する日にマニュアルで入力した仕訳伝票のリストが表示され、選択した仕訳について自動的に反対仕訳を作成します。

財務レポート

SAP Business Oneには、以下のような財務レポートがあります。

マルチレベルレポート：勘定科目の構造を登録することで、財務レポートを自由に作成することができます。SAP Business Oneは柔軟性の高い勘定コード体系編集機能があるため、マルチレベルレポートの作成が可能です。

統合レポート：販売、財務会計、在庫、購買などの各種レポートが用意されています。また、マウスでクリックするだけで、どのレポートでもMicrosoft ExcelやMicrosoft Wordへエクスポートを行うことができます。

XL Reporter：SAP Business Oneの各種データをもとにMicrosoft Excelのあらゆる機能を活用して、レポートを作成するためのツールです。

顧客管理 (CRM)

SAP Business Oneは、販売とサービスについての包括的な機能があります。これにより、顧客の獲得と維持を図りながら事業の収益性を高めていくための統合的な管理が可能となります。SAP Business Oneでは、販売案件、販売、そしてサービスの各分野の機能が緊密に連携しているため、顧客のライフサイクル全体を可視化することができます。

CRM 活動管理

SAP Business Oneは、最初の問合せの電話から成約に至るまでの全ての販売過程、そしてアフターサービスとサポートまで、各販売案件に関するすべての情報が記録できます。また、情報源、見込取引高、成約進捗度、成約日、競合情報、その他各種の活動など、個別の案件に関する詳細情報を入力することもできます。

SAP Business Oneは、以下のような機能でCRM活動をサポートします。

- 販売管理：見積書の作成・登録、受注データの入力、商品出荷処理、在庫残高の更新に加え、あらゆる請求書と売掛金の管理を行います。
- 購買管理：仕入先との取引についての管理と更新を行います。購買発注書の発行、在庫数の更新、輸入商品に関する輸送コストの計算のほか、返品処理や買掛金の処理などを行うことができます。

- 取引先マスター：得意先、再販業者、仕入先に関するすべての情報を管理します。管理対象の情報は、電子メールアドレス、プロフィール、販売レポート、取引先間のアクティビティ、勘定残高などがあります。また、カレンダーを使用してアクティビティを追跡したり、キーワード検索でカレンダー内の特定の業務活動とユーザーについてのみを表示させることもできます。
- レポート：情報源、販売区分、業種、得意先、そしてアイテムなどに基づいて案件分析を行うためのレポート作成ができます。このレポートでは、月ごとまたは四半期ごとというように、さまざまな範囲を指定して各種の予測や予想収益を表示することができます。また、時間の経過に伴う情報源別の案件の分布状況を見ることができ、収益性の高い案件生成活動を特定することもできます。
- 動的なレポート機能：動的な案件分析レポートにより、時系列で一元的なデータ把握が可能になります。また、販売案件と営業活動の傾向分析やパターン分析を簡単に行うことができます。

販売管理

SAP Business Oneの販売管理機能

SAP Business Oneには、以下の販売管理機能があります。

見積：SAP Business Oneは、見積書を作成するときに、柔軟性の高い機能が用意されています。明細行では、前の行までの小計を登録できるだけでなく、任意のテキストを明細行内に挿入することができ、推薦すべき他の代替アイテムを表示することも可能です。また、一度作成した汎用コメントについては、保存して再利用したり、伝票ごとにヘッダー、フッターを自由に設定したりすることもできます。さらに、見積ごとに総利益の計算ができ、同じ得意先へ最後に提示した価格を閲覧できるほか、見積を登録した後は、Microsoft Wordへのエクスポートも簡単に行えます。

受注：複数の倉庫にまたがる利用可能な在庫アイテム情報にアクセスすることで、受注処理を簡易化することができます。不足が発生した場合には、代替アイテムからの受注処理や、注文の一部を納品するなどの処理ができます。受注では、明細ごとに異なる納入日付や納入先を登録できるため、受注からの購買発注の登録や、得意先への直送などを処理することも可能です。

出荷：顧客に出荷する商品すべてに対して、配送用の伝票を作成することができます。SAP Business Oneの梱包処理機能により、出荷登録時にアイテムを複数に梱包分けすることができます。また、マウスのクリック操作で、出荷追跡番号の保存や納品書の出荷ステータスへのアクセスが可能です。出荷時には、在庫数量が自動的に更新されます。

売掛請求書：請求書を作成することにより、その請求書に対応する仕訳伝票が自動的に作成されます。また、得意先が請求書の一部について支払を行った場合には、自動的に領収書を作成することが可能です。

売掛請求書+支払：請求書と領収書を、同一伝票の情報を使用して、1つのステップで作成できます。

売掛クレジットメモ：返品された商品に対する処理を行うための、売掛請求書に対する消し込み伝票です。売掛クレジットメモを登録する時には、元の売掛請求書から簡単にデータをコピーすることができます。

伝票印刷：期間、伝票番号、または伝票タイプを選択して、販売伝票や購買伝票を印刷します。

伝票ドラフト：ドラフトとして保存されているすべての伝票を、印刷、編集、管理することができます。



自動集計ウィザード：指定した得意先に対する既存の販売伝票をグループ化することができます。該当する月に発生した各種の受注や納品書を作成したり、月末に得意先別に請求書を集計したりすることができます。

督促ウィザード：得意先ごとに複数の督促状を管理し、各得意先の督促履歴を更新します。このウィザードを定期的（毎月または毎週など）に実行することで、未払の請求書のチェックやさまざまな督促状の送信を、事前定義した間隔で行うことができます。また、利息や督促にかかる手数料の計算方法の指定も可能です。

購買管理

SAP Business One では、仕入先関連の業務処理である購買の管理と更新を行うことができます。

SAP Business One の購買管理機能

SAP Business One には、以下の購買管理機能があります。

SAP Business One は、中小企業向けに特化して設計された短期間で導入可能な業務管理ソリューションとして、高く評価されています。1つのアプリケーションとして業務を統合管理できるので、複数のスタンドアロン製品を統合する場合と比べてコストと労力を削減することができます。また、直感的なインターフェースを備え、幅広い設定が可能な SAP Business One は、短期間での導入が可能で、維持・運用も容易です。

購買発注：仕入先にアイテムやサービスを注文する際に、購買発注を登録し、印刷、メール、ファクス、または電子メールなどの形式で仕入先に注文を送ることができます。購買発注を登録すると、注文したアイテムの利用可能数量が更新され、納入予定日が倉庫管理責任者に通知されます。また、複数の倉庫に出荷する必要がある場合などには、1つの購買発注を分割することもできます。

購買入庫：納入を1つの倉庫に受け入れたり、複数の倉庫に分割して受け入れたりする処理が可能です。購買入庫は購買発注とリンクさせることができるため、受け取った数量が元の発注数量と一致しない場合に、購買発注の数量を変更することもできます。

購買請求書：仕入先の請求書进行处理の場合に購買請求書を登録します。同時に自動的に仕訳伝票が作成され、この情報に基づいて、仕入先に対する支払処理を行います。

購買クレジットメモ：仕入先に対し商品を返品する場合に登録する購買請求書に対する消込伝票です。購買クレジットメモを登録する時には、元の購買請求書から簡単にデータをコピーすることができます。

輸送コスト：輸送コストの各種要素（運送費、保険料、関税など）を各アイテムの FOB（本船積込渡し）コストに割当ててことで、アイテムの購買価格を計算することができます。アイテムの実際の在庫価額は、自動的に更新されます。

伝票ドラフト/伝票印刷：ドラフトとして保存されている購買伝票すべてについての編集と管理を行うことができます。また、購買伝票の印刷は、期間、伝票番号、伝票タイプを選択して印刷することができます。

資材所要量計画(MRP)

SAP Business One には、アイテムに関する計画と管理に役立つ、シンプルながらもパワフルな資材所要量計画(MRP)機能があります。これらの機能により、さまざまな基準に基づく生産や購買計画が可能となります。

SAP Business One の資材所要量計画機能(MRP)

SAP Business One には、以下のような資材所要量計画(MRP)機能があります。

需要予測：MRPウィザードの需要予測を使用することにより、過去の履歴や受注実績だけでなく、予測尺度に基づいて需要を予測することができます。これにより、個別製品に対する将来の需要を予測し、それに応じてアイテム計画を調整できるようになります。

MRPウィザード：将来の資材所要量についての調整と最適化を行い、購買と製造に関する推奨事項や例外を管理、実行します。5ステップのウィザードにより、部品表、需要予測、受注、発注、在庫状況をもとに、リードタイムやオーダーロットなどを考慮して資材所要量を算出し、時系列の推奨値を生成します。この推奨値をもとに購買発注や製造指図を登録することができます。また、ドリルダウン式の選択肢が利用可能なため、正味所要量計算や実際の伝票について照会し、そこから総所要量を簡単に算出することができます。

オーダー推奨レポート：オーダー推奨レポートの情報に基づいて、製造指図や購買発注を自動的に作成することができます。アイテムを外注する必要がある場合は、製造指図を購買発注に簡単に変更することも可能です。また、同じ仕入先への購買発注を1つにまとめ、購買プロセスをさらに合理化することができます。

在庫管理

アイテムマスターデータの管理や、シリアル番号、価格表などの管理に加え、代替アイテムの定義、在庫の増減に関する調整、周期的な棚卸しの実施、未処理の受注に対するピッキングリストの作成などを行うことができます。

SAP Business Oneの在庫管理機能

SAP Business Oneには、以下のような在庫管理機能があります。

アイテムマスターデータ: 生産アイテム(製造)、購買アイテム(購入)、非在庫アイテム(人件費や出張経費など)の定義を行うとともに、仕入先、購買や販売の数量単位、アイテムごとの税定義など、アイテム情報すべてを管理します。複数の倉庫に在庫として保管されているアイテムを、ロケーションに基づくさまざまな関連コストに紐付けながら、同時に管理することもできます。SAP Business Oneでは、標準原価法、移動平均法、先入先出(FIFO)法の在庫評価方法を使用できます。また、調達方法(製造または購入など)や、アイテムを購入するための発注間隔(月次、週次、日次など)を定義でき、アイテム購入時のロットサイズ、最小発注数量、平均リードタイムの定義も可能です。定義した情報は、MRP機能と連動して使用することができます。

シリアル番号: 事前定義した付番ルールを使用して、自動または手入力でシリアル番号を作成することができます。

ロット番号: アイテムにロットを割当て、事前定義した属性(有効期間など)を使用して分類することができます。その後、割当てられたアイテムのロットについて、受注や、出荷伝票、在庫移動などで定義を行います。



「当社では、事業運営を
合理化するとともに、各取引や
業務内容に対する財務管理を
強化し、事業計画に関する指標を
改善するためのソリューションを
必要としていました。その答えが、
SAP Business One です」

Malcolm Carradus 氏
Terrapinn Holdings Ltd.
グループ金融担当取締役

代替アイテム: 得意先が注文したアイテムの在庫がない場合に、得意先に推奨可能な代替アイテムのリストを作成することができます。代替アイテムは、類似性、価格、数量に基づいて、ランク付けを行うことができます。

取引先カタログ番号: 取引先カタログ番号とアイテム番号との相互参照を管理することができます。取引先カタログ番号は、アイテム番号の代わりに購買伝票上に記載することもできます。

入庫と出庫: 販売伝票や購買伝票に直接関係しないアイテムの入庫と出庫について記録することができます。

在庫転送: 倉庫間の在庫アイテムの移動を行います。

在庫転記: 在庫アイテムの期首残高の入力と、システム内の倉庫データを更新することができます。

棚卸サイクル: 在庫内の各アイテムに対して、いつ棚卸を行うのかを指定することで、棚卸作業の合理化を図ることができます。この機能により作成されるアラートとレポートにより、重要度の異なるアイテムについて、必要に応じた頻度での棚卸を支援します。

価格表: 価格表は必要な種類だけ設定が可能で、得意先や仕入先に適した価格表を割当てることができます。また、価格表間では簡単にリンクを設定できます。このリンクは、元の価格表が変更されると自動的にリンク先の価格表が更新されます。

特別価格表: 特定の得意先や仕入先に対する特別価格や、受注数量に応じた数量別価格や、価格表ごとの有効期間を定めることが可能です。

ピッキングと梱包管理機能: 複数のキュー内のピッキング処理と梱包処理を管理できます。受注が入力されると、「未処理」のキューに表示され、ピッキング用として全てリリース済、または一部リリース済としてマークすることができます。「リリース済」のキューには、ピッキング用にリリースされた受注がすべて表示されます。表示された受注は全ピッキングまたは一部ピッキングとしてマークできます。「未処理」と「リリース済」のキューのどちらでも、それぞれの受注、または

受注範囲に対するピッキングリストの自動登録ができます。この機能では、ドリルダウン機能を使用でき、取引先マスターとアイテムマスターに加え、元の伝票もドリルダウンで参照することができます。

サービス管理

SAP Business Oneには、顧客管理(CRM)機能があるため、企業は、顧客の獲得、維持、ロイヤルティを一元的に管理ができ、事業の収益性についても統合的な管理を行うことができます。SAP Business Oneでは、販売案件、販売管理、そしてサービス管理の各分野の機能が緊密に連携しているため、顧客のライフサイクル全体を可視化することができます。

サービス管理機能では、サービス業務、サービス契約管理、サービス計画、得意先とのやり取りの追跡、得意先サポート、そして販売案件の管理などが可能です。

SAP Business Oneのサービス管理機能

SAP Business Oneでは、以下のようなサービス管理機能があります。

サービス契約：得意先へ販売したアイテムやサービスに対する定期サポート、保証契約を登録します。この契約管理機能では、契約の開始日と終了日や、特定の契約条件(保証される応答時間や解決期間など)の管理を行います。

得意先別登録商品カード：得意先へ販売したアイテムについての製造シリアル番号、代替シリアル番号、サービスコール履歴などの詳細情報を管理できます。また、特定のアイテムに割当てられたサービス契約も一覧として記載することができます。

得意先別登録商品カードレポート：得意先、または得意先のグループに対して販売されたすべてのアイテムと、それに対応するシリアル番号が表示されます。

サービスコール：得意先からの問合せやアイテムに関する問題を登録できます。特定の事項について関連した会話履歴を管理し、閲覧することができます。レポートでは、処理者、発生した問題のタイプ、優先度、アイテム、またはコールステータスなどを指定して、該当するサービスコールのみを表示することができます。また、期限切れとなったコールを表示するかの選択も可能です。

キュー別サービスコール：特定のイベントに関連付けられたコール履歴を確認し、サービスコールの追跡と管理を行うことができます。コール状況を監視して、コールを個々の処理者に割当てたり、各チームのキューで管理したりすることができます。

処理者別応答時間：得意先とサービス部門の担当者間で行われた会話を把握し、1回のサービスコールで適切な対応を行うために必要な時間について追跡を行うことが可能です。

レポート

SAP Business Oneのレポート機能を使って、レポートを素早く作成し、その後すぐに修正作業を実行することができます。レポートには、会計レポート、財務レポート、在庫レポートなどに加え、意思決定を支援するための各種分析レポートがあります。また、作成したすべてのレポートは、マウスでクリックするだけでMicrosoft Excelにエクスポートすることができます。さらに、シンプルな操作性であるナビゲーション機能を利用することで、データ抽出も簡単に行うことができます。例外レポートにより内部照合

や外部照合を実行できる機能など、決算処理やレポート作成の準備を行う際に役立つ機能もあります。

SAP Business Oneのレポート機能

SAP Business Oneは、「ドラッグ&リレート」機能により取引業務についての包括的な情報を提供しています。また、この機能を使用することで、すべての業務における主要な関係や取引についても即座に把握できるようになります。

クエリジェネレータを使用すると、データベースへの照会処理やレポートの定義を直感的な操作で実行することが可能となります。あらゆる項目のデータを使用して、詳細と概要のどちらのレベルでも簡単にレポートを作成することができます。一度定義したクエリは、将来的に使用するためにクエリライブラリに保存でき、必要に応じてレポートエディタを使用して、既存のクエリの再定義や変更を行うこともできます。

クエリウィザードは、クエリジェネレータと似ていますが、ウィザードを使用することで、ユーザーはクエリに必要なパラメータの定義を段階的なガイドに従っていくだけで作成することができます。このツールは、Structured Query Language (SQL) 構文に精通していないユーザーがクエリを生成する場合に役立ちます。

事前定義済みレポート：SAP Business Oneには、機能領域ごとに事前定義されたレポートが多数用意されているため、各業務に関する固有のレポートを作成し、必要に応じて出力をカスタマイズすることができます。また、すべてのレポートは、印刷での出力、電子メールによる送信、そしてMicrosoft Excelへのエクスポートが可能です。すべての事前定義済みレポートが記載された一覧については、「事前定義済みレポート」セクションをご覧ください。

Microsoft Excelベースのレポート機能

XL Reporter: 中小企業の多くは、さまざまな業務データを集約して、正確でタイムリーな財務レポートを作成するための煩雑な作業に悩まされています。SAP Business OneのXL Reporter機能を使用すると、自社の財務状況の全体像を正確に把握することができます。XL ReporterはSAP Business Oneと統合されているため、総勘定元帳、売掛金、買掛金、販売管理、購買管理、在庫管理のほか、ユーザーが定義したあらゆる項目も含め、さまざまなデータソースから取得した最新データについてのレポートを作成できます。

XL Reporterの機能: XL Reporterを使用すると、以下のようなことを実行できます。

正確でタイムリーなレポートの作成: XL Reporterでは、レポートの作成や実行に必要なあらゆる機能が、使いやすい視覚的なインターフェースで提供されています。ポイント&クリックやドラッグ&ドロップなどの機能を使用することで、レポート作成を行う際の操作性が向上します。また、標準レポートや特別なレポートを作成し、データをドリルダウンして情報分析を行うこともできます。

標準レポートと特別なレポートの作成: 定義ウィザードを使用すると、レポートの作成が簡単になり、マウスを数回クリックするだけで、誰もがSAP Business Oneのデータに関するカスタムクエリを登録できるようになります。レポート作成後は、個々のデータにドリルダウンして、そのデータの元となっている取引を確認できます。また、クエリの登録時にはデータの照会や更新を行うこともできます。

損益詳細情報への迅速なアクセス: 期間ごとの営業利益の実績と予測に関する集計を取得し、簡単に傾向を把握することができます。

総合的な企業ダッシュボード: 販売、在庫移動、そして最も高い業績を上げている取引先など、企業にとって重要な業績指標を瞬時に表示し、グラフ化することができます。また、任意のチャートで業績を表示し、セルをクリックするだけでデータをドリルダウンすることができるため、各指標に関連付けられた適切なアクションの選択が可能となります。また、財務パフォーマンスと将来展望についての評価を迅速に行うこともできます。

短期間での導入: XL Reporterは、Microsoft Excelと統合された直感的で使い慣れたインターフェースを採用しているため、操作をすばやく習得することができます。また、このインターフェースには、技術的なテーブル構造やフィールド構造のユーザーへの表示を制限するメタデータレイヤーを備えています。XL Reporterを使用すれば、ユーザーは簡単な取引詳細レポートから高度な財務諸表やダッシュボードまで、事業にとって重要な意味を持つレポートを簡単に作成することができます。ドラッグ&ドロップ機能を使用することで、XL Reporterを初めて使用するユーザーでも、ドリルダウン機能を備えたレポートを短時間で作成することができます。

レポートの整理: レポート定義、実行済みのレポート、レポートブックについての管理と整理を行うことができます。SAP Business Oneのメインメニューからレポートの照会と実行ができるため、操作も簡単です。レポートの配布については、スケジューリング機能を使用して、レポートを1つにまとめたり、電子メールで送信したりすることができます。

カスタムレポートのデザイン: Microsoft Excelの標準機能やインターフェースと併せて使用できるため、レポートを作成する機能が広がり、高度なレポートデザインオプションを使用することもできます。このため、独自のカスタムパラメータ、数式、レイアウトなども簡単に作成できます。

簡易化されたレポート生成プロセス: 企業のデータにアクセスし、特別なレポートから詳細な財務諸表まで、必要に応じて適切なレポートを作成できます。

事前定義済みレポート

SAP Business Oneは、それぞれの機能領域において以下のような事前定義済みレポートがあります。

- 財務会計レポート
 - 売掛残高レポート
 - 財務レポート
 - 比較レポート
 - 予算レポート
- 販売案件レポート
 - 案件管理
 - ステージ分析
 - 案件パイプライン
 - 案件予測と長期予測
 - 成約案件と失注案件
 - 未処理案件と処理済案件
 - 時系列情報取得元別
- 販売管理と購買管理レポート
 - 未処理明細一覧
 - 販売分析
 - 購買分析



- 取引先管理レポート
 - アクティビティ概要
 - 休眠顧客
 - 督促履歴レポート
- 生産管理レポート
 - 未処理製造指図
 - 部品構成表(BOM)
- サービス管理レポート
 - サービスコール
 - キュー別サービスコール
 - 処理者別応答時間
 - 平均対応時間
 - サービス契約
 - 得意先別登録商品カード
 - サービスモニタ
 - マイサービスコール
 - マイ作業中サービスコール
 - マイ期限切れサービスコール
- 在庫管理レポート
 - アイテムリスト
 - 最終価格レポート
 - 休眠アイテム
 - アイテム別在庫レポート
 - 在庫ステータス
 - 倉庫別在庫レポート
 - 在庫評価レポート
 - シリアル番号取引レポート
 - ロット番号取引レポート

Microsoft Outlook 統合

SAP Business OneはMicrosoft Outlookと統合されているため、ユーザーは、勘定の作成や取引案件についての最新情報を、すべての関係者と共有することができます。

データ同期: SAP Business OneとMicrosoft Outlookとの間で、「予定表」「連絡先」「仕事」について共有することができます。この機能により、自動同期実行のスケジューリングが可能です。また、SAP Business Oneのスナップショット機能を使用してデータの定義を行えば、それらをMicrosoft Outlookにエクスポートすることができます。これにより、2つのアプリケーション間で発生するコンフリクトを解消することができます。

見積: SAP Business Oneの販売見積をMicrosoft Outlookにインポートし、その後、照会や編集を行ったり、電子メールとして送信したりすることができます。また、Microsoft Outlookで新規の見積を作成し、SAP Business Oneで保存することもできます。

電子メールの統合: Microsoft Outlookとの統合によって、以下の機能を実行できます。

- Microsoft Outlook 電子メールをSAP Business Oneのアクティビティとして保存する
- オリジナルの電子メールテキストや添付ファイルを、SAP Business Oneのアクティビティへのアドオンとして保存する
- 各アクティビティの後続アクティビティとリマインダーについて設定する

Microsoft Word、Microsoft Excelとの

連携: Microsoft Outlookとの統合により、Microsoft WordからSAP Business Oneへのアクセスが可能となり、さらにMicrosoft Wordの文書をSAP Business Oneのアクティビティとして保存することができます。また、Microsoft Excelに対しても同じ機能があり、作成したワークブックをSAP Business Oneの取引先や担当者と関連付けられたアクティビティとして保存することができます。

簡単な設定とカスタマイズ

SAP Business Oneは、標準のMicrosoft Windows プラットフォームとシームレスに統合された単一サーバー上に配置します。

SAP Business Oneの合理化されたアーキテクチャーは、以下のデータベースをサポートしています。

- Microsoft SQL Server
- IBM DB2 Express Edition

単一サーバー環境のアーキテクチャー

SAP Business Oneのサーバーアーキテクチャーには、セキュリティ、バックアップ、ネットワークアクセスプロトコルなどが含まれています。アクセスは、WANネットワークターミナルサービスやダイヤルアップネットワーク接続により実行できます。SAP Business Oneの環境では、標準的な手順でデータベースをバックアップできるので、複数のマシン間でデータベースの保存や転送を行う必要がなくなると同時に、重要なビジネス情報への迅速なアクセスが可能です(図1を参照)。

SAP Business One 単一サーバー API レイヤー

SAP Business Oneは、コンポーネントオブジェクトモデル(COM)技術に基づくアプリケーションプログラミングインターフェース(API)を搭載しています。このAPIを使用することで、企業の特定の要件に合わせてアプリケーションの機能拡張や調整を行うことが可能です。開発者は、Visual Basic、C/C++、Javaなどのプログラミング言語を使用し、COMオブジェクトにアクセスすることができます。

使用可能なAPIには、データインターフェース用とユーザーインターフェース用の2種類があります。

データインターフェースAPI

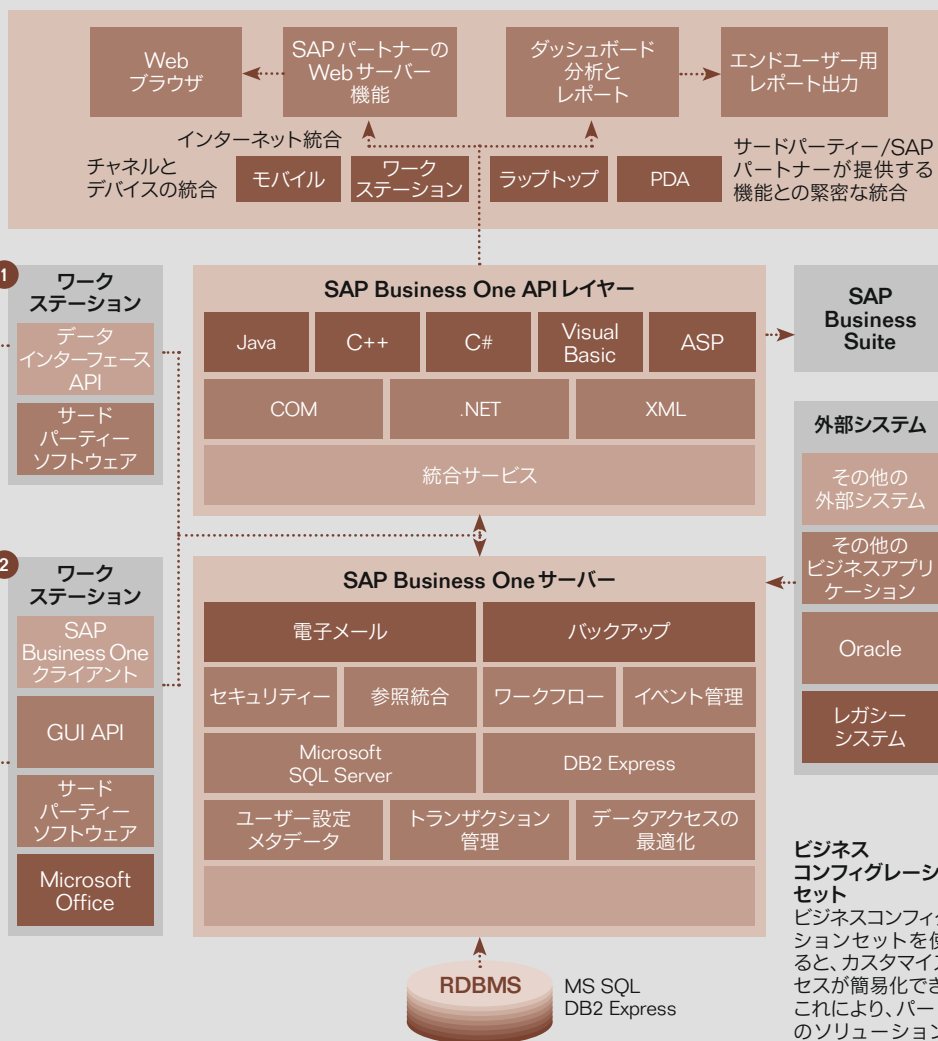
データインターフェースAPIを使用することで、開発者は、企業独自の業務要件に合わせて画面の追加/変更、アプリケーションの動作の修正などを行い、SAP Business Oneを拡張することができます。

ユーザーインターフェースAPI

ユーザーインターフェースAPIにより、入力項目、チェックボックス、システム内部のイベントなどにアクセスするためのオブジェクトと手順を提供しています。

ユーザーインターフェースによって提供されるオブジェクトと手順には、以下のようなものがあります。

- Application : SAP Business Oneに対する接続を確立します。
- Form : SAP Business Oneモジュール内のウィンドウを意味しています。
- Item : ダイアログボックスの処理を可能にします。また、ダイアログボックスの内容、位置、サイズ、表示/非表示を変更することもできます。
- Check box : チェックボックスの処理を行います。
- Matrix : ウィンドウ内のテーブルを表します。
- ItemEvent : イベントを処理します。
- MenuItem : 個々のメニュー項目を有効にします。
- MenuEvent : イベントプロセスの操作を可能にします。



**ビジネス
コンフィグレーション
セット**
ビジネスコンフィグレーションセットを使用すると、カスタマイズプロセスが簡易化できます。これにより、パートナーのソリューションの登録や更新が簡単になり、特定の機能やビジネスプロセス全体に関する設定の再利用が可能となります。

図 1: 単一サーバーアーキテクチャー

	サーバー	ワークステーション
オペレーティングシステム	Microsoft Windows 2003 Server R2 Standard/Enterprise 32ビット/64ビット Microsoft Windows 2003 Server SP2 Standard/Enterprise 32ビット/64ビット Microsoft Windows Small Business Server 2003 R2 Standard/Premium Microsoft Windows Small Business Server 2003 SP1 Standard/Premium	Microsoft Windows XP SP2 Professional、32ビット Microsoft Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate、32ビット
CPU	Microsoft SQL Server 1x Intel Pentium IV IBM DB2 UDB Express Edition 1x Intel Pentium IV	1x Intel Pentium III (または同等のプロセッサ) 以上
RAM	Microsoft SQL Server 1GB IBM DB2 UDB Express Edition 1GB	256MB
ハードディスク空き容量	Microsoft SQL Server システムパーティション 0.5GB/ データパーティション 2GB IBM DB2 UDB Express Edition システムパーティション 0.5GB/ データパーティション 2GB	512MB
ドライブ	DVD-ROM	DVD-ROM
ディスプレイ	640 x 480 (256色) 以上	800 x 600 (24ビットカラー) 以上
データベース	Microsoft SQL Server 2005 SP2 IBM DB2 UDB Express Edition Version 9.1 FP2	Microsoft IE 6.0 SP1 Microsoft Data Access Components 2.6 (MDAC) 以上
ソフトウェア	Microsoft IE 6.0 SP1 Windows 2003 Serverの場合： Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.6 以上 IBM DB2の場合： Microsoft .NET SDK Windows 2000	

※ SAP Business One 導入のためのシステム要件は最新情報を必ずご確認ください。

1

データ転送ワークベンチ

データ転送ワークベンチツールは、レガシーシステムからSAP Business Oneにマスターデータとトランザクションデータを移行するためのものです。事前定義されたデータファイルテンプレートにより、インポートのためのデータの準備が容易になります。

2

Microsoft Outlookとの統合

SAP Business Oneは、Microsoft Outlookと完全に統合されているため、両者の間で円滑な情報交換が可能となり、複数の組織やビジネスの機能に対応できます。また、これによりMicrosoft Outlookの「予定表」「連絡先」「仕事」で管理される情報を、部門間で共有することができます。

SAP Business Suiteとの統合

SAP Business Oneは、SAP Business Suiteとの統合のためのプラットフォームを提供しています。統合ツールであるSAP Business One Integration for SAP NetWeaverです。また、オープンアーキテクチャーを採用しているため、独立系ソフトウェアベンダー (ISV) のアプリケーションとも簡単に統合できます。このオープンアーキテクチャーにより、SAPソフトウェアの幅広いメリットを活用することができます。

ユーザー定義によるカスタマイズ設定

SAP Business One では、フォーム、クエリ、そしてレポートを調整するための強力なツールがあり、専門的な技術トレーニングを行わなくても、個別のビジネス要件に合わせた設定を行うことができます。為替レートの設定、権限パラメータの設定のほか、内部メールや電子メール、データなどのインポート/エクスポート機能の設定が可能です。

SAP Business One の設定機能

SAP Business One では、以下のような幅広い設定機能があります。

- **会社データの選択**：各種基本設定
- **システムの初期設定**：会社データと一般設定
- **ユーザー定義**：勘定コード表、税コード、営業担当者、販売区域、プロジェクト、住所書式、支払条件、仕入先、得意先、アイテムグループと手数料グループ、倉庫、サービス契約のテンプレートとキュー、銀行、支払方法、出荷方法
- **権限**：情報アクセス権限(全権限、参照のみ、または権限なし)の設定、チームや部門、支店ごとのアクセス権限の設定
- **為替レートの設定**：あらゆるレポートと取引データの基礎となる為替レート
- **ユーティリティ**：データのバックアップ、各種自動処理、データのインポート/エクスポート
- **リストア**：データの管理とデータのリストア
- **アラート機能**：警告メッセージを送信するための個人プロファイルの定義
- **メッセージ送信**：社内ユーザー、得意先、仕入先への送信
- **期首残高**：総勘定元帳勘定と取引先勘定の開始残高

- **マスターデータレコード**：アプリケーション全体が更新対象
- **取引先ファイル**：得意先または仕入先のマスターデータレコードを含む
- **部品表**：割当てられた個別アイテムが含まれた、ヘッダーを示す部品構成表
- **販売伝票/購買伝票**：ヘッダー行と伝票行に、割当てられた個別アイテムが記載されている伝票
- **仕訳伝票**：タイトル別またはテキスト別

変化するビジネスニーズへの対応

SAP Business One は、以下のような方法により、IT に大きな負荷をかけることなく、変化するビジネス要件に対する継続的な調整を図ることができます。

- フォームやクエリ、レポートに関する設定を保存し、あらかじめ組み込まれているプロセスモデルに実際の日常業務が直接反映されるようにする
- ほかのアプリケーションを統合することで、IT 投資の価値を向上する
- アラート機能を使用してトランザクションとワークフローを制御する
- SAP Business One のバージョンアップに早期に対応し、各種のバリエーションや修正に合わせられるようにする
- SAP Business One のバージョンアップに対するモディフィケーションの統合を最小限の作業で実現することで、通常のアップグレードで生じるコストを削減する

ユーザー定義項目

取引先や伝票、在庫の詳細、アイテムなどのデータオブジェクトウィンドウ内でユーザー独自の項目を設定することができます。ユーザー定義項目を利用して、テキスト、住所、電話番号、URL、添付ファイル、画像、ドロップダウンリストなどのさまざまな情報を入力することができます。これらの項目は、アップグレードを行う際に、使用しているデータベースに合わせて自動的に更新されます。

フォーマット検索

各項目(ユーザー定義項目など)に対し、事前に定義された検索プロセスにより取得した値を確実に入力することができます。フォーマット検索は、以下の状況で使用できます。

- 以下のいずれかに基づく項目値の自動入力
 - SAP Business One のさまざまなオブジェクトの使用
 - 事前定義済みのリスト
 - ユーザーが事前に定義したクエリ
- システム項目間の依存関係の定義
- ユーザー署名、登録日、小切手の残高など、クエリにのみ使用可能な項目の照会(取引先用)

アラートと承認

ワークフローに組み込まれたアラート機能を使用して、業務上必要な処理に対する即時通知や自動応答の機能をユーザーが設定することができます。追跡が必要な業務処理を指定し、その処理に関する許容範囲と制限の範囲を定義すると、各処理で定義した設定の枠を外れた場合に通知が送信されるため、ユーザーはそれに基づいて対応することが可能です。業務処理の決まりから逸脱した場合は、管理者に対して即座に通知がなされ、処理を管理するためのワークフロープロセスが開始されます。



SAP Business Oneのアラート / 承認機能
以下は、自動アラートと承認機能の詳細です。

例外による予防的管理：業務上必要な処理について、自動的にアラートが通知されるので、手作業で処理を監視する必要がなくなります。アラート機能により、以下の処理を実行することができます。

- 従業員に対し、組織内で監視の対象となっている不具合や業務処理について通知する
- 社内の各従業員の役割に関する情報をオンラインで提供する(閾値を超えた場合、設定されたユーザーに対するアラート機能がリアルタイムで起動します)
- 業務処理に関連付けられたアクションについての意思決定を行うために、ドリルダウン機能を使用して、アラートの特性に関する詳細情報を迅速に把握する
- 特定の業務処理について管理者に通知し、ワークフロープロセスを開始する
- ワークフロープロセスや、承認手順、そして自動的に開始されたアクションの一部として通知されたアラートに即座に対応する

ソフトウェア開発キット(SDK)

SAP Business One Software Development Kit (SAP Business One SDK)は、プログラミングインターフェース、サンプルコード、関連ドキュメント、簡単なユーティリティなどが含まれたツールです。このソフトウェア開発キット(SDK)を使用することで、開発者は、外部アプリケーションとSAP Business Oneとの接続や、カスタム機能の追加を簡単に実行することができます。SAP Business Oneでは、グラフィカル・ユーザーインターフェースと個別のビジネスオブジェクトレイヤーが用意されています。SAP Business One SDKを使用することで、ユーザーインターフェースレイヤーとビジネスオブジェクトレイヤーの両方に対する完全なアクセスが提供されます(図2参照)。

SAP Business One は、販売管理、顧客管理、財務会計、購買管理、在庫管理、生産管理を完全に統合することで、迅速な意思決定を行うために必要なリアルタイムな情報の可視化を実現します。事業をあらゆる側面から把握することにより、パフォーマンスを監視して非効率性を排除できるだけでなく、収益性の高い案件の特定が可能となります。

SAP Business One SDKの機能

このソフトウェア開発キット(SDK)には、以下のような機能があります。

- オブジェクト指向レイヤーを介して、SAP Business Oneのビジネスロジックに対する体系的なアクセスが提供されます。
- SAPパートナーと顧客は、SAP Business Oneの機能を顧客独自のニーズに合わせて拡張できます。
- 幅広いプログラミング言語とツールが用意されているため、開発者は使い慣れた技術やアプリケーションを使用することができます。
- 高い下位互換性が提供されているため、SAP Business Oneを新しいバージョンにアップグレードする際の作業のやり直しを最小限まで抑えることができます

SAP Business One SDKのコンポーネント
このソフトウェア開発キット(SDK)の一部として、以下の主要コンポーネントを提供しています。

- データインターフェース用アプリケーションプログラミングインターフェース(API)：SAP Business Oneと外部アプリケーションとの統合に使用
- ユーザーインターフェース用API：SAP Business Oneクライアントアプリケーションの拡張とカスタマイズに使用
- ドラッグ＆ドロップ機能を備えたインターフェース開発ツール：SAP Business Oneのカスタムウィンドウの設計に使用
- Javaコネクタ：Javaプログラミング言語によるSAP Business Oneと外部アプリケーションとのインターフェース用として使用
- 関連ドキュメント一式
- サンプルアプリケーション

1 データインターフェースAPI

データインターフェースAPIは、SAP Business Oneとサードパーティーのアプリケーションとのリアルタイムの連携を実現するために使用します。データインターフェースAPIでは、完全な機能を備えた一連のビジネスオブジェクトによるSAP Business Oneへの体系的なインターフェースが提供されているため、アプリケーションに対する接続とプロセスの自動化が可能となります。具体的な使用例としては、カスタムPOSシステム統合や人事サービス統合、モバイルデバイスとの同期などがあります。

データインターフェースAPIにより、以下の点が可能となります。

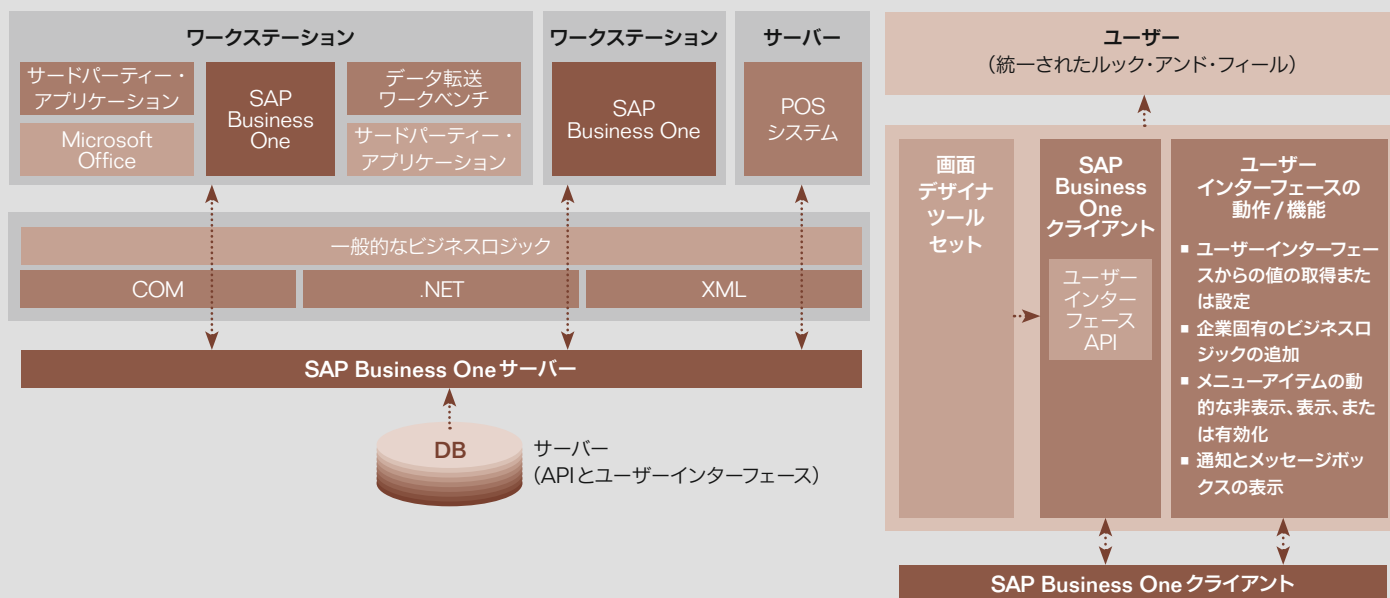
- ビジネスオブジェクトに対する読み込み、書き込み、更新を直接的に行うオブジェクトと方法の提供
- 完全なオブジェクト指向による、最小限のトレーニングで使いこなすことのできる強力なインターフェースの提供
- マスターレコード、トランザクションデータ、システム設定、ユーザー定義データへの全面的なアクセス
- 円滑なアップグレードプロセスを保証する下位互換性

2 ユーザーインターフェースAPI

ユーザーインターフェースAPIにより、開発者は、新規ウィンドウの登録、既存ウィンドウの再設計、メニューやダイアログボックスの追加などを行い、SAP Business Oneを修正することができます。修正は、項目を非表示にしたり無効化したりする場合のように簡単なものから、全く新しいカスタムモジュールをSAP Business Oneに追加する複雑なケースも考えられます。

ユーザーインターフェースAPIにより、以下の点が可能となります。

- 単一の統合されたユーザーインターフェース内でのカスタム機能の登録
- ビジネスロジックの変更と、デザイン上の簡単な修正
- 新規のウィンドウ、メニュー、ボタン、項目などの追加
- ユーザーによるプログラムが可能なイベントに関するアラート機能の使用



3 プラットフォーム/システム要件

SAP Business Oneは、Microsoft Windows XPをサポートしています。オペレーティングシステム用の最新サポートパッケージのインストールを強く推奨しています。SAP Business One 導入のためのシステム要件は最新情報を必ずご確認ください。

4 Java コネクタ

Java コネクタ (Java ラッパー) により、開発者は、Java 開発環境で使用するデータインターフェースAPIの強力な機能と高い柔軟性のすべてを手にすることができます。

図2：SAP Business One Software Development Kit

中小企業向けのSAPソリューション

世界に認められた高い信頼性

SAP Business Oneは、SAPが提供する中小企業向けの業務管理ソリューションです。SAPの中堅・中小企業向けのポートフォリオには、SAP Business All-in-OneやSAP Business ByDesignなども含まれています。SAPは、中小企業が抱える幅広いニーズを踏まえて、それぞれの企業固有の事業、IT、人事要件に合わせた最適なソリューションを提供しています。

SAP Business Oneは、販売管理、顧客管理、財務会計、購買管理、在庫管理、生産管理を完全に統合することで、迅速な意思決定を行うために必要なリアルタイムな情報の可視化を実現します。事業をあらゆる側面から把握することにより、パフォーマンスを監視して非効率性を排除できるだけでなく、収益性の高い案件の特定が可能となります。SAPは、実証済みの標準ソリューションを、導入しやすい価格設定で提供しています。SAP Business Oneを導入することにより、業務全体の合理化を図るとともに、必要な情報を迅速に取得でき、収益の拡大を促進することができます。

SAP Business Oneは、SAPとSAPパートナーの幅広い経験に基づくメリットを提供することで、世界中の約2万社以上のお客様から高い信頼を得ています。常に競合他社の先を歩み続ける企業を支えることのできるソリューション、それがSAPソリューションです。

「SAP Business Oneを導入したことで、決算をすばやく行えるようになり、月末直後に完了できるようになりました。また、情報の集約作業やExcelなどのMicrosoft製品への入力作業が省力化され、大量のレポートを迅速に作成することもできます」

Paul Rakkar氏
Time Out Group Ltd.
グループ財務会計管理者

詳細情報

現在、20以上の言語に対応し、40を超える国々で使用されているSAP Business Oneは、SAPのグローバルな知識を活用して地域のサービス/サポートを提供しているビジネスパートナーの世界的なネットワークによって支えられています。中小企業向けのベストソリューション、SAP Business Oneのシンプルかつパワフルな機能についてのより詳しい情報は、以下のWebサイトをご覧ください。

<http://www.sap.com/japan/solutions/sme/businessone/>

ソリューション概要

SAP ジャパン株式会社

本社 〒100-0004

東京都千代田区大手町 1-7-2 東京サンケイビル

TEL 03-3273-3333 (代表)

<http://www.sap.com/japan/>

サマリ

SAP® Business Oneは、販売管理、顧客管理から財務管理、購買管理、在庫管理、生産管理まで、事業全体にわたるすべての業務を1つのシステムで統合的に管理する、中小企業向けに設計された業務管理ソリューションです。短期間で導入が可能なSAP Business Oneによって、中小企業は業務の合理化を行えるとともに、リアルタイムに提供される正確・最新な情報に基づいて意思決定を行うための体制を構築し、ビジネスの成長と収益の拡大を促進することができます。

中小企業の抱える課題

- 事業の成長に集中するための時間の確保
- 重要な意思決定を行うための適切な情報をリアルタイムに取得
- 緊密な顧客関係の構築と維持
- データの重複入力、エラー、遅延を削減
- キャッシュフローの最適化とビジネスニーズの実現

管理できる業務プロセスとソフトウェア機能

- 会計管理と財務会計：総勘定元帳、仕訳帳、予算、債権 / 債務の管理
- 販売管理と顧客管理：顧客とのコンタクトの管理と更新
- 購買管理と生産管理：購買調達プロセス全体の管理
- 在庫と物流：在庫状況の管理、価格表、倉庫作業の管理
- レポートと管理：業務の監視と意思決定の実行を支援するためのレポート作成

ビジネスメリット

- 事業の成長に集中するための時間の確保：業務の合理化によって実現します。
- 顧客ニーズへの迅速な対応：必要な情報をリアルタイムに取得できることによって、迅速な行動につなげることができます。
- 最終利益の拡大：1つのシステムに統合された業務管理ソリューションの導入により、データの重複入力やエラーが減少します。それにより、業務プロセスの効率が向上、コスト削減、遅延の減少が実現し、最終的な決算にも大きな成果をもたらします。
- 顧客関係の改善：一元化された情報をリアルタイムに取得できることによって、顧客とのコミュニケーション、販売、サービス契約などの管理が容易になり、より緊密な関係を構築できます。
- コスト削減：使いやすいアプリケーションによって従業員のトレーニングコストを最小限に抑えられると同時に、他の業種別アプリケーションとの統合を簡単に行えることで、変化する事業要件に合わせた調整が可能となり、コストの削減を実現できます。

さらに詳しい情報は

SAP 担当者に直接お問い合わせいただくか、以下の Web サイトをご覧ください。

<http://www.sap.com/japan/solutions/sme/businessone/>

49009210J (SE/08/10)

©2008 SAP AG. All rights reserved. SAP, R/3, xApps, xApp, SAP NetWeaver, Duet, PartnerEdge, ByDesign, SAP Business ByDesign および本書で引用されているその他の SAP 製品およびサービス名は、関連するロゴも含めて、ドイツおよびその他の世界各国における SAP AG の商標または登録商標です。本書で言及されているその他の製品およびサービス名は、関連するロゴも含めて、それぞれの会社の商標です。本書に記載された情報は参考として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。また、これらの文書は SAP AG およびその関連会社 (SAP グループ) が情報提供の目的にのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAP グループは文書に関して過失に対する責任を負うものではありません。SAP グループの製品およびサービスに関する保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、ここに記載されたものに限られます。本文書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。